

都市環境と自然環境が 調和したまち

戸田市が持つ都市の利便性と豊かな自然を活かしながら、市民の環境に対する意識高揚と自主的な取り組みを促すことや、快適な生活環境を創出することで、調和のとれた持続可能なまちを目指します。

都市環境と自然環境が調和したまち

施策 25 自然に親しむ空間の整備・推進

施策 26 魅力ある公園づくり

施策 27 生活環境の保全

施策 28 環境衛生の充実



第10回戸田市フォトコンテスト応募作品

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	

基本目標 VI に該当するSDGsの目標は、背景色をカラーで示しています。



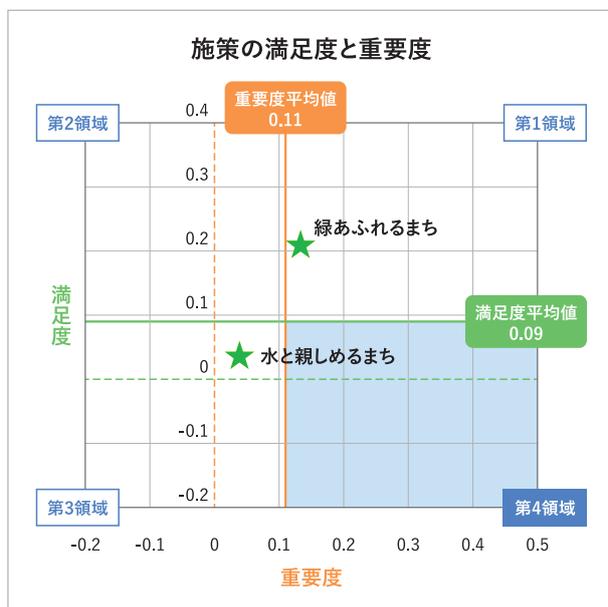
自然に親しむ空間の整備・推進

【施策の目的】

良好な緑地の保全などを通じて、生物多様性に配慮した自然空間を創出するとともに、既存の緑地・水辺とのネットワーク化を図り、市民が緑や土、水辺といった自然を身近に感じ、親しむことができる環境を整備します。

現況と課題

- 緑や土、水辺といった自然は、市民の憩いの場であるだけでなく、健康活動の場やコミュニティ醸成の場など、身近な活動の場として利用されており、引き続き、有効に活用してもらえるようにする必要があります。
- 市民ニーズに応えるために、市民が自然を身近に感じ、親しむことができるよう、緑地・水辺のネットワーク化を進める必要があります、道路や河川などの公共施設における良好な緑地空間の確保が重要となっています。
- 戸田市では、土地売却や宅地開発の進行により、市民緑地や空閑地を含む民有地における緑地の減少が顕著になっています。また、令和4年(2022年)には生産緑地^{*}における30年の営農義務が終了し、生産緑地の売却や転用が懸念されるほか、農地所有者の高齢化に伴う都市農地の減少も危惧されています。
- 都市農地の減少が危惧されるなか、気軽に農作業を楽しめる土に親しむ広場^{*}の拡充や現状維持が難しい状況にあり、緑と土に親しむ機会の確保が必要です。また、河川や水辺に親しむことのできる環境づくりも重要です。





取り組みの方針

(1) 潤いのある緑地空間の確保

- 緑化補助金や保存樹木^{*}制度の周知、緑化研修会の開催による啓発を継続して実施し、民有地の緑化を促進します。
- 市民ボランティアやCSR^{*}活動を行う事業者と協力を働き掛け、地域の緑の増加を図ります。
- 緑地・水辺のネットワーク化を進めるため、民間の参加・協力を計画的かつ効果的に推進することにより、道路や河川などの公共施設の整備と連動し、良好かつ効果的な緑地の確保に取り組みます。

(2) 自然に親しむ環境づくり

- 埼玉県と連携して実施しているみどりの学校ファーム^{*}を推進するとともに、学童や保育園に対し、土に親しむ広場の貸し出しを行います。
- 友好・姉妹都市^{*}と連携した収穫体験を充実させ、緑と土に親しむ機会を創出します。
- 河川への愛着や興味関心を持ってもらうため、水辺に親しむことができる環境づくりに取り組みます。

主要指標

指標名	指標説明	当初値	目標値	備考
緑などの自然環境がよいと感じている市民の割合	緑などの自然環境がよいと感じている市民の割合	38.9%	40.5%	【市民意識調査】平成26年度(2014年度)の値に改善
収穫体験参加者数	収穫体験の年間参加者数	249人	249人	現在の水準を維持
河川イベント参加者数	笹目川イベント及び荒川クリーンエイドの年間参加者数	1,533人	1,698人	直近の増加数(年33人)を加算

関連計画

- 戸田ヶ原自然再生事業全体構想
- 水と緑のネットワーク形成プロジェクト(戸田市地区)行動計画
- 戸田市緑の基本計画



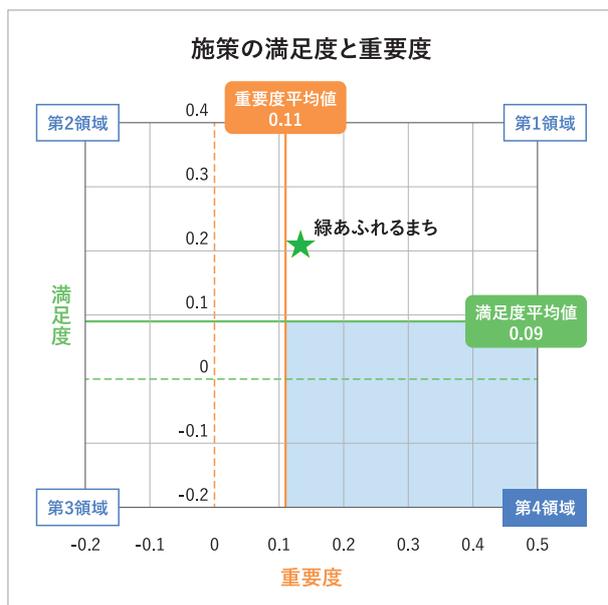
魅力ある公園づくり

【施策の目的】

市民にとって身近な憩いの場である公園等について、地域の景観や特色を活かし、市民の誰もが安心して集える公園・緑地を整備します。

現況と課題

- 国ではこれまで人口一人当たり10m²を目標とする量的な充足を念頭に都市公園を整備し、都市化に伴う開発から良好な緑地を守るという時代要請に応じた施策を講じてきましたが、高度経済成長期に整備した公園施設の急速な老朽化が懸念されています。
- 人口減少・少子高齢化の進展を踏まえ、従来の人口増加を前提とした開発の適切なコントロールを主眼とした施策から、防災やレクリエーション空間の提供、コミュニティの形成など、緑とオープンスペースのポテンシャルを最大限に引き出すことを重視した施策への転換が求められています。
- 戸田市では、昭和60年（1985年）の埼京線開通や土地区画整理事業^{*}などによる社会基盤整備の結果、都市公園の市民一人当たりの敷地面積は約10㎡まで広がっています。一方、開設後約30年を経て古くなった公園については、地域性や市民ニーズを踏まえた魅力的で安全な公園に再整備する必要が生じています。さらに、現在進行中の土地区画整理事業の区画整理地区内には、新規公園などの整備を予定しており、整備費や整備後の維持費の増加が見込まれています。
- 今後、老朽化した既存公園を再整備する際、子どもと高齢者のみを対象とした従来型の整備手法に偏らないよう、地域性や市民ニーズなどを把握し、今後の公園の在り方を検討する必要があります。また、公園の維持管理費の抑制に向けた取り組みが必要となっています。
- 環境空間における緑地・緑道整備については、東日本旅客鉄道株式会社と調整を図りながら進めていく必要があります。



第10回戸田市フォトコンテスト応募作品



取り組みの方針

(1) 魅力ある公園づくり

- アンケートや実態調査などから地域性や市民ニーズを捉え、既存公園を魅力的で安全な公園に再整備する公園リニューアル計画に基づき、整備を進めます。
- ◆ 新規公園整備には、被災時にも機能する施設を付加することで、これまでの集い・憩うための公園機能に防災機能を加え、地域における公園の必要性を向上させます。
- 公園施設の安全性を高めながら公園施設に要する費用を抑制するため、予防保全型の改修を進め、公園施設の長寿命化を図ります。

(2) 環境空間における緑地・緑道の整備促進

- 東日本旅客鉄道株式会社と継続して協議を行い、環境空間における緑地・緑道整備を進めます。

主要指標

指標名	指標説明	当初値	目標値	備考
公園に対する愛着	公園の整備・緑化の推進に満足している市民の割合	36.4%	42.3%	【市民意識調査】平成26年度(2014年度)の値まで改善
公園の維持管理に携わるボランティア団体数	公園の維持管理に携わるボランティア団体数	41団体	42団体	該当する公園がある全ての町会・自治会の数(100%)
ちびっこプール利用者数	ちびっこプールの利用者数	8,964人	9,437人	直近3年間の最高値から休止箇所の利用者数の数値を減じた値

関連計画

- 戸田市公園リニューアル計画
- 戸田市緑の基本計画



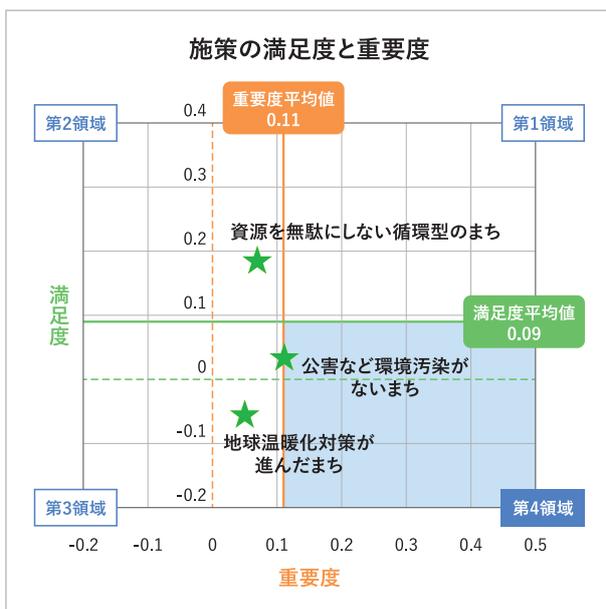
生活環境の保全

【施策の目的】

環境に配慮した取り組みを推進することで、快適な生活環境の保全を図ります。

現況と課題

- 近年、世界全体で地球温暖化が一因とみられる異常気象が多発してきていることに伴い、令和2年(2020年)以降の地球温暖化対策の新たな枠組みであるパリ協定^{*}が採択されるなど、温室効果ガス^{*}の削減に向けた取り組みが加速しています。猛暑日や集中豪雨が増加傾向にあるなか、国は温室効果ガスの削減を図る「緩和策」に加え、気温上昇に伴うリスクへの対応として「適応策」に取り組み始めています。
- 戸田市においても、家庭や事業者、公共施設などから排出される温室効果ガスについて、国の目標などを踏まえて計画的に削減していく必要があります。今後は、温室効果ガスの削減とともに、気候変動に対する適応策についても更に検討していく必要があります。また、戸田市の大気や河川水質などの環境については、事業者による基準の順守などにより改善されてきていますが、更に改善させていく必要があります。
- 戸田市においては、温室効果ガスの削減に向けた環境意識の醸成や環境配慮設備の導入促進などを進めていく必要があります。また、公共施設から排出される温室効果ガスについても、施設の老朽化により設備効率が悪化するなどして近年増加傾向にあります。
- 公害については、事業者などによる基準の順守などにより苦情件数が減少傾向にありますが、引き続き対策を行うとともに、戸田市の環境に対する現状について情報発信を行う必要があります。
- 循環型社会^{*}の推進については、3R(リデュース・リユース・リサイクル)^{*}に関する取り組みを進めていくことが必要です。



埼玉県立南稜高等学校 協力・提供



取り組みの方針

(1) 地球温暖化対策の推進

- ★ 市民・事業者・行政の協働により、太陽光などの再生可能エネルギーの普及を促進するほか、省エネの推進や生活スタイルの見直しを図るため、環境配慮設備に係る補助や意識啓発に取り組み、市域全体で地球環境への負荷を計画的に減らすとともに、戸田市の実情を踏まえて気候変動に対する適応策について検討を進めます。

(2) 公害対策・水質改善の推進

- 河川の水質改善が図られるよう、国や埼玉県などの関係機関とも連携し、浄化導水^{*}を実施するとともに、浄化施設^{*}の適正稼働及び浄化槽の適正管理の促進に努めます。
- 工場など事業者に対する公害苦情については、関係機関と協力しながら改善指導を行い、市民の良好な生活が維持できるよう努めるとともに、市民に対する情報発信に取り組みます。

(3) 循環型社会の推進

- 不用品登録の斡旋や粗大ごみからの再生家具への活用など、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取り組みを推進します。

主要指標

指標名	指標説明	当初値	目標値	備考
温室効果ガス排出量の削減率	平成25年度(2013年度)比の温室効果ガス排出量の削減率	8%削減	17%削減	令和12年(2030年)時点の26%達成に向け削減幅を平準化
一般廃棄物のリサイクル率	市内で排出された一般廃棄物のリサイクル率	18.1%	23.5%	ごみ処理基本計画目標値である令和9年度(2027年度)25%達成に向け目標を平準化
河川の水質の環境基準 [*] 達成率	水質の状態を示すBOD(生物化学的酸素要求量)の環境基準達成率	50%	50%以上	水質の悪化傾向を阻止

関連計画

- 戸田市環境基本計画
- ごみ処理基本計画



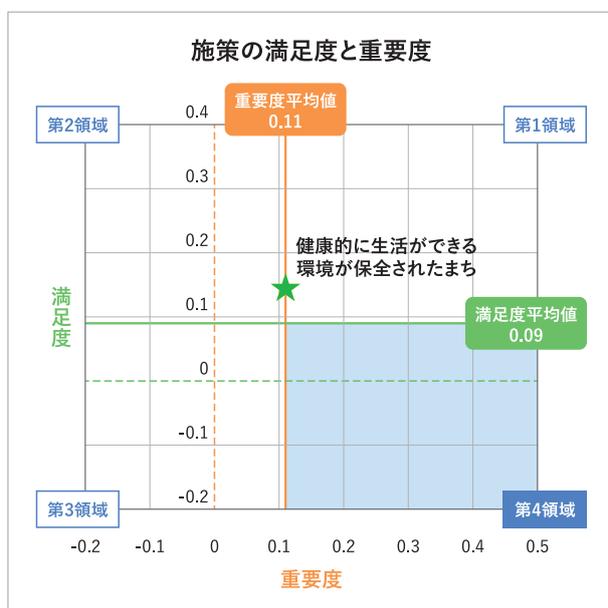
環境衛生の充実

【施策の目的】

ごみのないきれいなまち並みを維持するなど、快適で衛生的な生活環境の充実を図ります。

現況と課題

- 戸田市では、人口増加とともにごみの総排出量の増加が懸念されています。今後、外国人住民の増加も予想されるなか、文化の違いを踏まえつつ、ごみの回収等に関して分かりやすく周知を図ることが必要です。
- ごみの減量化については、人口増加を想定したごみの排出量の抑制が課題となっています。
- ごみの不法投棄やたばこのポイ捨て、犬のふんの放置などの環境衛生については、条例の周知啓発などにより改善しつつありますが、現在も市民からの苦情があります。
- 世界的に海洋プラスチックごみ^{*}が問題となっていることもあり、ごみを海へ流出させない対策が求められています。
- ごみのないまち並みを維持するため、道路や河川などにおける行政主導の定期的な清掃に加え、市民や事業者との協働による清掃が必要です。
- 市内のごみの処分を行う蕨戸田衛生センターについては、施設の老朽化に対応するため、現在焼却施設の延命化を行っています。



埼玉県立南稜高等学校 協力・提供



取り組みの方針

(1)ごみの減量の促進

- ◆ ごみの分別の徹底を進めるとともに、ごみの発生を抑制します。

(2)環境衛生対策の充実

- 戸田市ポイ捨て等及び歩行喫煙をなくす条例の周知を図るとともに、パトロールなどによる監視を強化することで不法投棄の抑制に努めます。
- 道路や河川などの定期的な清掃、市民や事業者などとの協働による清掃活動を実施することで、海へのごみの流出抑制やごみのないきれいなまち並みを実現します。
- ◆ 蕨戸田衛生センターの老朽化に対応して安定したごみ処理を続けていくため、建て替えや大規模改修、防災・災害対策を含めた今後のあり方について検討します。

主要指標

指標名	指標説明	当初値	目標値	備考
ごみの排出量	市内から出たごみの一人1日当たりの排出量	883g	680g	ごみ処理基本計画の推移を適用
530運動におけるごみ回収量	530運動におけるごみの回収量	16,460kg	16,460kg以下	530運動の参加人数を現状以上とし、啓発活動を推進して、ごみの回収量を削減
不法投棄件数	市内で発生した不法投棄の件数	1,298件	1,298件以下	パトロールや啓発活動を推進し減数

関連計画

- ごみ処理基本計画
- 戸田市環境基本計画

